景気動向調査　　期間：2024 年 4 月～ 6 月　作成：川西市商工会

【小規模企業景気動向調査】（令和 6 年 5 月期調査　全国商工会連合会 6 月 26 日発表分 参照）

＜産 業 全 体＞

◇…コロナ禍からの回復ペースを上回るコスト高により、行先が危ぶまれる小規模企業景況…◇

５月期の産業全体の景況は、全DIが小幅に低下した。業種別にみると、ゴールデンウィークやインバウンド需要の拡大から一部の製造業・サービス業のDIは上昇した。前年同月比では売上額以外のDIは上昇しているが、前月から継続して全DIが低下傾向にあり、今後の景況悪化が懸念される。要因として、円安等によるコスト高の長期化から、これまで価格転嫁をできていた事業者も継続した対応が困難な状況になっている。

＜製 造 業＞

◇…受注回復による売上増を、利益増につなげたい製造業…◇

製造業は、売上額・採算DIがわずかに上昇し、資金繰り・業況DIは小幅に低下した。

食料品関連は、全DIが低下した。ゴールデンウィークの影響で、売上額DIはプラス値を維持しているものの、コストが上昇し続ける中、価格転嫁に限界を感じている事業者が出てきている状況。機械・金属、繊維工業関連は共に、受注が回復傾向であり、売上額・採算DIが上昇した。しかし、今後大きく売上額・採算を伸ばすには、人手不足の解消が必須であり、人材確保に苦慮している事業者が多い。

＜建 設 業＞

◇…コスト高等の既存課題に加え、2024年問題という新たな課題に直面する建設業…◇

建設業は、全DIが低下した。特に売上額DIは２桁ptの大幅な低下となった。

公共工事・民間工事ともに、都市部以外では減少傾向のため、売上が低下傾向にある一方で、受注はあるものの、人手不足・資材入荷待ちに伴う工期遅れや、コスト高に係る採算性の悪化により、思うように利益をあげられていない事業者も多い。また、2024年問題への対応から人件費が高騰してきており、様々な課題が山積している状況が改めて浮き彫りになった。

＜小 売 業＞

◇…取扱商品によって、消費者の動向に差が生まれてきた小売業…◇

小売業は、全DIが小幅に低下した。

衣料品・耐久消費財関連は共に、全DIが低下した。食料品等の日用品が値上がりする中、どちらも買い控えが発生している状況。特に、単価が高い耐久消費財関連については、節約志向が顕著であり、全DIが大幅に低下した。食料品関連は売上額・採算・資金繰りDIは不変であったが、業況DIはわずかに低下しており、仕入れ価格が上昇し続けている状況を不安視するコメントが多かった。

＜サービス業＞

◇…旅館関連がけん引するも、価格転嫁に苦しむサービス業…◇

サービス業は、資金繰り DI がわずかに上昇したが、その他の DI は低下した。

旅館関連は全業種で唯一、全 DI がプラス値であり、新型コロナが５類に移行してから初めてのゴールデンウィークや、インバウンド需要の影響が大きかった。クリーニング関連は、旅館関連の好況に比例して売上が伸びたが、価格転嫁は進んでおらず、採算が厳しい状況に変化はない。理・美容関連についても、固定客が多く、売上は比較的安定しているが、コスト高により採算は悪化している。

産業全体

DI	4月	5月	前月比
売上額	9.0	4.9	▲4.1
採算	▲15.3	▲17.2	▲1.9
資金繰り	▲12.4	▲14.7	▲2.3
業況	▲8.7	▲11.9	▲3.2

製造業

DI	4月	5月	前月比
売上額	7.1	8.3	1.2
採算	▲17.4	▲16.1	1.3
資金繰り	▲13.9	▲16.6	▲2.7
業況	▲10.5	▲13.3	▲2.8

建設業

DI	4月	5月	前月比
売上額	10.6	▲2.6	▲13.2
採算	▲17.9	▲21.9	▲4.0
資金繰り	▲13.4	▲18.4	▲5.0
業況	▲11.0	▲15.8	▲4.8

小売業

DI	4月	5月	前月比
売上額	2.0	▲0.6	▲2.6
採算	▲19.9	▲22.2	▲2.3
資金繰り	▲15.5	▲18.3	▲2.8
業況	▲14.3	▲17.4	▲3.1

サービス業

DI	4月	5月	前月比
売上額	16.3	14.4	▲1.9
採算	▲5.9	▲8.8	▲2.9
資金繰り	▲6.8	▲5.5	1.3
業況	0.9	▲0.9	▲1.8

【兵庫県内企業動向調査】

●兵庫県の経済・雇用情勢（県 地域経済課 6 月 18 日発表分）

本県の経済・雇用情勢は、一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している。

景況等…企業の業況判断は、足もと悪化し、先行きは慎重な見方となっている。

需　要…個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。
　　輸出は、増勢が鈍化している。設備投資は、増加計画にある。

生　産…生産は、持ち直しの動きがみられる。

雇　用…雇用・所得環境は、全体として緩やかに改善している。

金　融…倒産件数は、前年を上回った。

●県内景気の現状についての日本銀行神戸支店のコメント（6月10日発表分）

管内の景気は、一部に弱めの動きがみられるものの、基調としては緩やかに回復している。

個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。設備投資は、増加している。住宅投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、緩やかに増加している。輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。

こうした中、生産は、一部に弱めの動きがみられるものの、全体としては横ばい圏内で推移している。雇用・所得環境は、全体として緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回って推移している。

① 景況

区分		R5.6	R5.9	R5.12	R6.3	R6.6（予測）
全産業		9	10	18	14	8
	大企業	13	21	24	19	14
	中堅企業	11	15	18	10	6
	中小企業	5	2	15	14	6
うち製造業		▲1	6	13	9	6
うち非製造業		20	15	23	21	11

出所：県内企業短期経済観測調査（日本銀行神戸支店）

【川西市の経済動向等について（中小企業景況調査）】

※経営指導員による巡回時のヒアリングから見える川西市内の動向（６月）について

市内動向

市内の6月の景気は、一部に弱めの動きがあるが、全般としては、非常に緩やかな回復基調とする事業所が多い。小売・サービスでは、大型連休後も市内の個人消費者の季節需要もあり、売上が伸びている事業所が多い。製造業は、円安にともなうコスト負担の高まりで改善は進まず、横ばい若しくは微増で推移しているところが多かった、建設業においては回復基調が見られなかった。

製造業

製造業では生産活動は、横ばいから微増で推移したところが多く、大きな回復を見るに至っていない。依然として、原材料価格の高止まりの影響を受けており、利益の確保に苦戦が続いている。自動車関連では、6月に自動車大手5社による認証試験不正問題の影響で車の出荷・生産が停止された影響もあり生産が落ち込んでいたが、挽回生産の動きがあり今後、受注が増えると見込まれる。

建設業

住宅関連では、新築やリフォームの受注は微増しているが、建築資材の高騰や土地価格の高止まりが影響しており、景況感は、横ばい程度にて推移しているところが多い。公共工事は、回復基調が鈍化している感が見られた。 先行き感については、原材料価格の上昇、賃上げ問題に加えて人手不足等の影響により、見通しは依然として暗い。

小売・サービス業

個人消費が、一部に弱めの動きは見られたが、全体的に回復基調が見られた。

スーパーでは、食料品や日用品では、値下セール商品の販売は非常に好調であるが、他の高額商品では動きが鈍くなるなど、購入点数の減少など消費者の節約志向が強く出ている。節約志向の表れは、ドラッグストアやディスカウントストアなどが好調であることからも見て取れる。家電販売では、エアコンなど季節商材の販売は好調な半面、全体としては弱めの動きとなった。

夏に向けてレジャー関連の需要の増加に合わせて、衣料品販売ではセールによる売上増への期待感を寄せている。飲食業では、ランチタイムの売上は回復基調となっているが、夜の時間帯ではコロナ禍前までの客足の戻りには至っていないところが多い。

全般的に原材料価格の高騰のほか、光熱費、人件費、物流費などコスト高の影響をカバーできるだけの価格転嫁に至っておらず、利益の確保に苦慮している。